

特集



はじめに

皆さんは日本の国魚をご存じでしょうか。日本が世界に誇る観賞魚の王様「錦鯉」です。錦鯉は平和や日本の文化の象徴ともいわれており、2022年10月25日に国魚として呼称されるようになりました。

錦鯉の誕生は、今から200年以上前の江戸時代後期にさかのぼります。かつて二十村郷（にじゅうむらごう）と呼ばれた、現在の新潟県長岡市山古志地域と小千谷市東部一帯では、真鯉の養殖が盛んに行われていました。その中から、突然変異で色や模様のついた鯉が出現したのが、錦鯉のはじまりとされています。

錦鯉は海外でも人気が多く、輸出額は年々増加傾向にあり、2023年の輸出額が過去最高となったことから、特集として取り上げることにしました。



錦鯉の輸出

- ★近年、アジアの他、米国や欧州など世界的に錦鯉が人気！
- ★全国、東京税関管内ともに2023年の輸出金額が過去最高！
- ★2023年、成田空港、羽田空港合わせると数量、金額ともに約8割のシェア！



令和7年1月23日
東京税関



写真提供「一般社団法人 全日本錦鯉振興会」

本特集の「錦鯉」は、輸出統計品目番号 0301.11-200（生きている魚→観賞用の魚→淡水魚→こい（キュプリヌス属のもの））に分類されています。

※錦鯉の統計品目番号は2019年より新設されており、それ以前は淡水魚の区分けで、金魚かその他のものに分けられており、輸出統計品目番号は0301.11-900として分類されていました。

※2023年以前は確定値、2024年1~11月は確報値です。

年別輸出動向

図1は全国の錦鯉の輸出数量・金額の年別推移です。

「こい」の輸出統計品目が新設された2019年から、輸出数量は2021年の約348トンをピークにあまり伸びていないものの、輸出金額は2023年において東京税関管内では約53億1700万円、全国では約66億9600万円となり、過去最高を記録しました。

輸出が上昇傾向な理由は、全日本錦鯉振興会（以下「振興会」）によると、国外の需要が高まっていることであり、振興会による海外でのセミナーやプロモーションを通じた輸出国拡大の取り組みや、生産者の品種改良等の努力により美しい錦鯉が世界に受け入れられたものとのことです。

1~11月の累計年別推移について、2024年の全国の輸出金額は約56億4400万円で過去最高であり、このまま続けば、2023年の年間輸出金額を上回る勢いです。

月別輸出動向

図2は全国の錦鯉の輸出数量・金額の月別推移です。

2021年1月から2024年11月を図で表すと増減に傾向があることがわかります。

輸出金額、数量ともに各年12月頃がピークであり、次に3月頃が多く、逆に8月は少ないことがわかります。

その理由ですが、振興会によると、錦鯉の生態と養殖のサイクルが関係しているとのことです。錦鯉は春に産卵・孵化し、夏に飼育を行い、秋から冬にかけて15~20cm程度に成長したものがまとめ買いされることから12月にピークを迎えます。また各種品評会が秋から翌年の春まで行われるため、その影響により3月に2回目のピークを迎えるということです。夏場の8月は、気温が25度以上となるため錦鯉が弱りやすく、また、品評会も実施されないため輸出が少なくなるとのことです。

図1 輸出数量・金額 年別推移

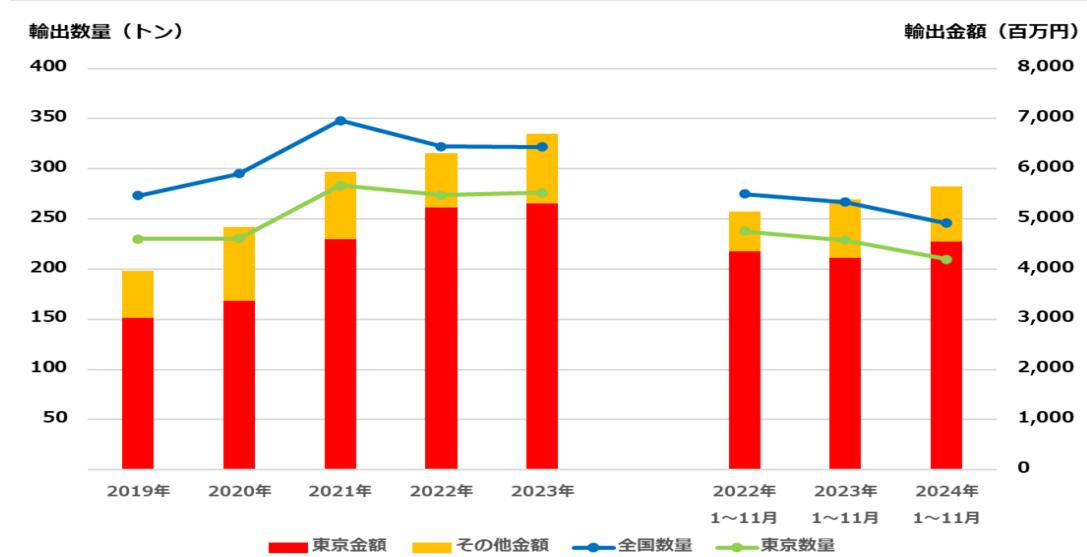
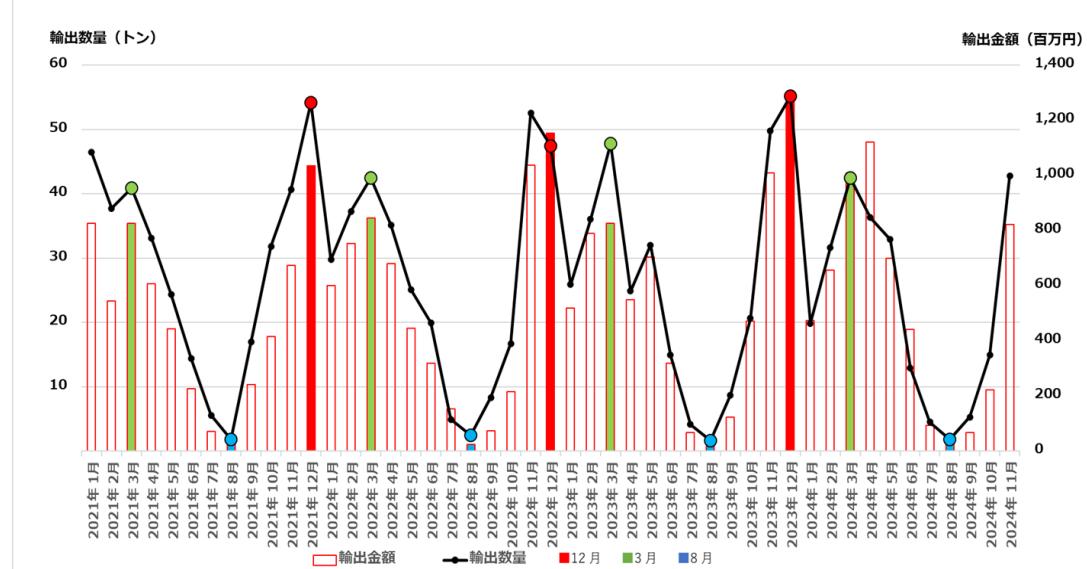


図2 輸出数量・金額 月別推移（全国）



港別輸出動向

令和5年版・漁業センサス（※1）によると、全国で399事業所が主に錦鯉の養殖を行っており、そのうち226事業所と半数以上が新潟県に所在しています。以下、広島県、岐阜県、福岡県と続きます。

また2023年の錦鯉の国内外の販売数量は、全国で約250万匹となっており、新潟県ではそのうちの約100万匹以上生産されています。（※2）

図3は2023年の全国の港別輸出構成比です。

輸出数量及び金額については、首位が成田空港、次いで羽田空港が多くなっており、東京税関管内の2空港で全国の錦鯉の輸出の8割ほどを占めています。なお、成田・羽田の順位については2019年から変動がありません。

振興会によると、世界各国・地域に直送が可能で便数も多く、輸出手続きがスムーズな成田・羽田が選ばれているとのことです。

図4は2024年1月～11月の全国の港別輸出構成比です。2023年と比較してもほぼ変わらないことがわかります。

図3 港別輸出構成比（2023年）

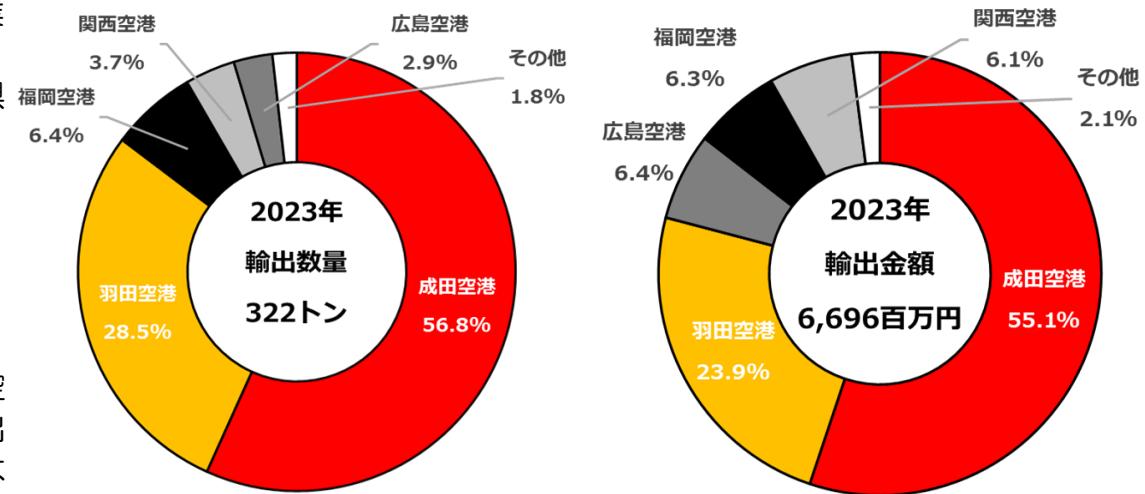
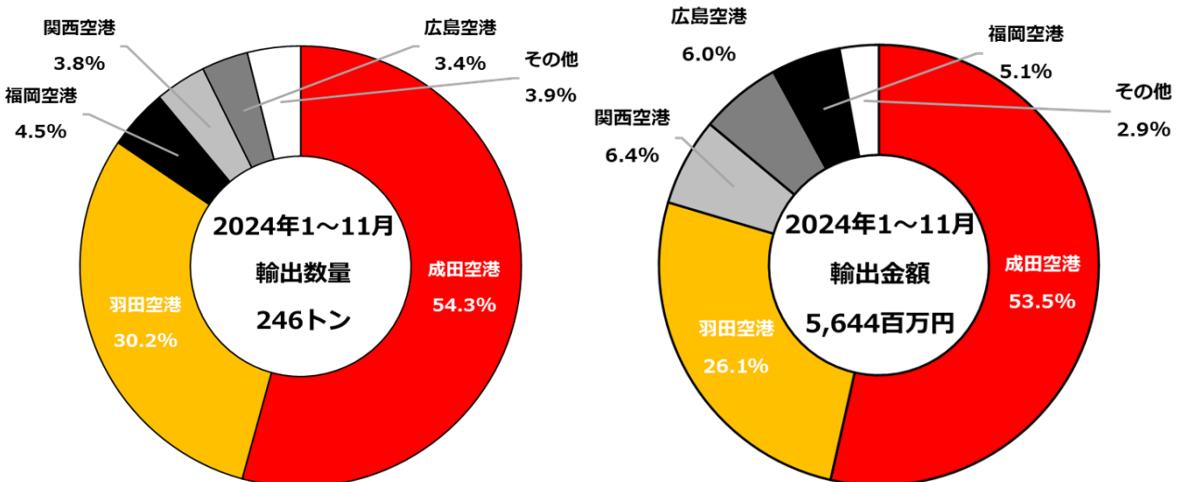


図4 港別輸出構成比（2024年1月～11月）



（※1）漁業センサス：農水省で5年ごとに行う水産業を対象とした全国一斉調査（漁業の生産構造、就業構造を明らかにし、企画立案推進等の基礎資料を作成し提供するための調査）

（※2）出典：漁業・養殖業生産統計

国(地域)別輸出動向(2023年)

図5は2023年における全国の輸出数量、金額の上位10カ国(地域)別輸出構成比です。

輸出数量、金額ともに首位が米国で、次いで中国と続き、欧米やアジアへの輸出が主となっております。2023年の輸出先は29カ国(地域)でした。

振興会によると、米国が数量・金額ともに首位なのは、米国において同会の会員数(仲買人や養鯉業者)が増加しており、錦鯉の人気が高まっているためではないかとのことです。次に中国では、錦鯉は「鯉の滝登り」という‘ことわざ’にもあるとおり、立身出世を表す縁起物として人気が高いのではないかとのことです。しかしながら、中国当局に輸出を認められた施設の認可が期限切れとなつたことから、2023年10月を最後に中国への輸出が途絶えました。

なお、アジアでは御三家の他、丹頂などの赤い模様が入った品種が好まれ、欧州では金色や銀色に光り輝く品種が好まれる傾向があるようです。(品種についてはP6で説明。)

図6は2023年における東京税関管内の輸出数量、金額の上位10カ国(地域)別輸出構成比です。

輸出数量、金額ともに首位が中国で、次いで米国と続きます。全国との違いは、わずかな差ですが輸出数量・金額ともに中国が首位です。これは成田・羽田からの輸出先としては、中国が多いことを表しています。金額では欧州向けの金額が全国よりも上位になります。

2023年の輸出先は28カ国(地域)で、東京税関がほぼ網羅している形となりました。

図5 全国の国(地域)別輸出構成比

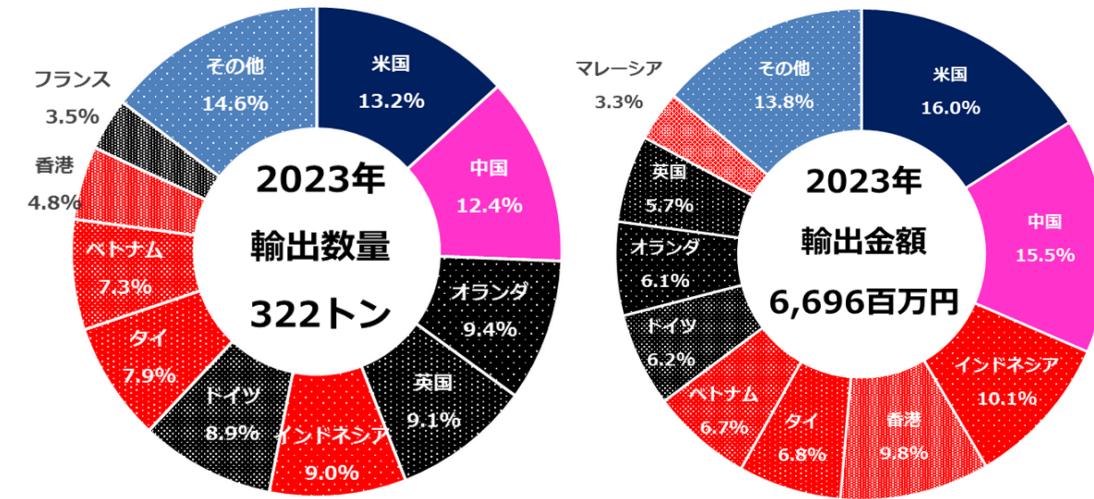
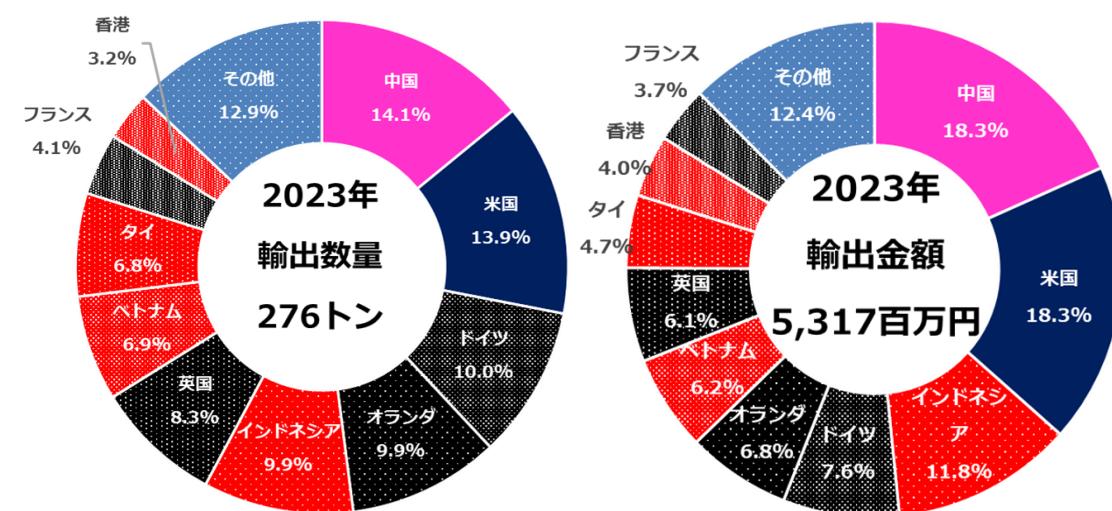


図6 東京税関管内の国(地域)別輸出構成比



国(地域)別輸出動向(2024年1月～11月)

図7は2024年1～11月における全国の輸出数量、金額の国(地域)別輸出構成比です。

輸出数量は、首位がベトナム、次いで米国と続きます。また輸出金額では首位がベトナム、次いで香港となります。2024年は前年同期(1～11月)と比較して、輸出数量こそ少し減少したものの、輸出金額はベトナムや香港が躍進したことで増加し過去最高となっています。

振興会では、輸出数量・金額ともに首位のベトナムについては、米国と同様、同会の会員数(仲買人や養鯉業者)が増加しており錦鯉人気が高まっていること、輸出金額2位の香港については、富裕層による購入が増えたことを理由として挙げています。

なお、2024年11月に中国側が新潟、広島、福岡3県の養鯉場6カ所を検疫施設に認定したことから中国への輸出再開の動きが出ています。

図8は2024年1～11月における東京税関管内の輸出数量、金額の国(地域)別輸出構成比です。

輸出数量は、首位が米国、次いでベトナムと続きます。また輸出金額では首位が米国、次いで香港となります。全国との違いは輸出数量、金額ともに米国が首位、次いで数量ではベトナム、金額では香港となっていることです。

振興会によると、全国と同様の理由により、このような順位となっているのではないかとのことでした。2023年の東京税関管内は中国が首位でしたが、中国への輸出が途絶えてからはベトナム向けの輸出が躍進したことにより、前年と同程度の輸出を維持できたものと考えられます。

図7 全国の国(地域)別輸出構成比

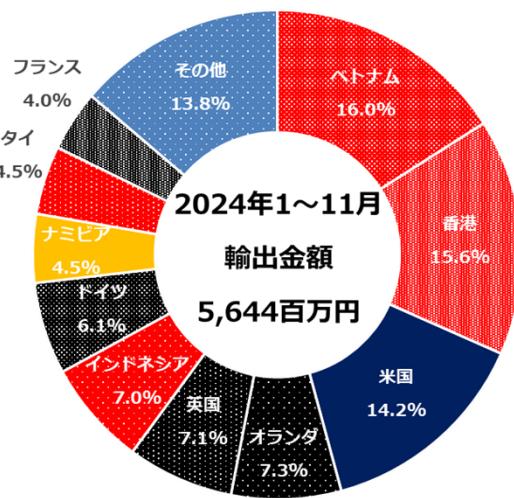
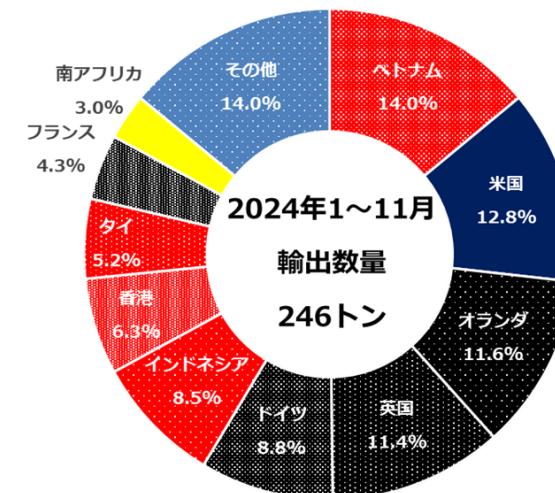
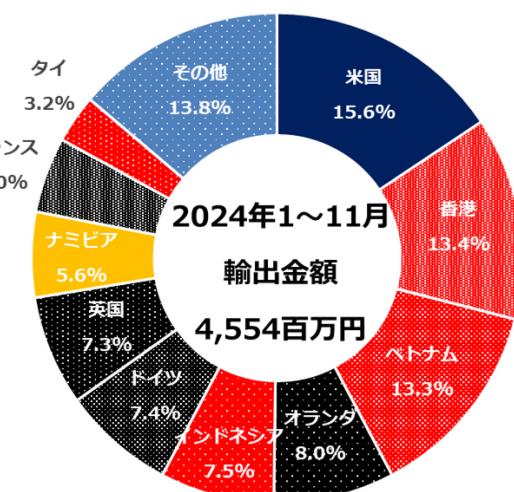
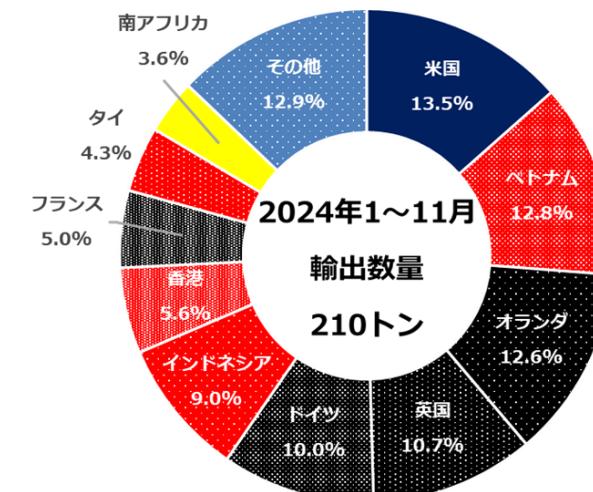


図8 東京税関管内の国(地域)別輸出構成比



コラム

◆ 錦鯉の歴史

錦鯉が全国に知られる大きな転機となったのは、1914年（大正3）に東京・上野公園で開催された東京大正博覽会です。開催期間4か月で、およそ750万人もの入場者を数えた一大イベントに、錦鯉（当時の呼び名は「変鯉（かわりごい）」）20数匹が出品され、銀牌を受賞しました。そのほかに、当時の皇太子・裕仁親王（後の昭和天皇）が錦鯉を大変気に入られ、皇居に献納したというエピソードもあります。

これを期に、錦鯉はその価値を飛躍的に高め、芸術品としての地位を確立しました。

◆ 錦鯉の品種

錦鯉の品種は生産者の熱意と努力によって今では130を超える品種が存在し、国内のみならず世界中の人に愛されています。2022年には、錦鯉に関する主な用語や基本となる21品種の定義が日本農林規格（JAS）において規定されています。さらに農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略で掲げる29の品目の一つに加えられ、振興会については、輸出促進法に基づき、認定農林水産物・食品輸出促進団体に認定されるなど、ジャパンブランドの一翼を担うまでになりました。

21もある品種の中で特に人気が高いのは御三家（紅白、大正三色、昭和三色）と呼ばれ海外でも親しまれています。



紅白
地肌の色が白（白地）であって赤、又は黒にひ（紅縞）の斑紋（以下縞斑）があるもの



大正三色
白地であって縞斑及び黒の斑紋があるもの

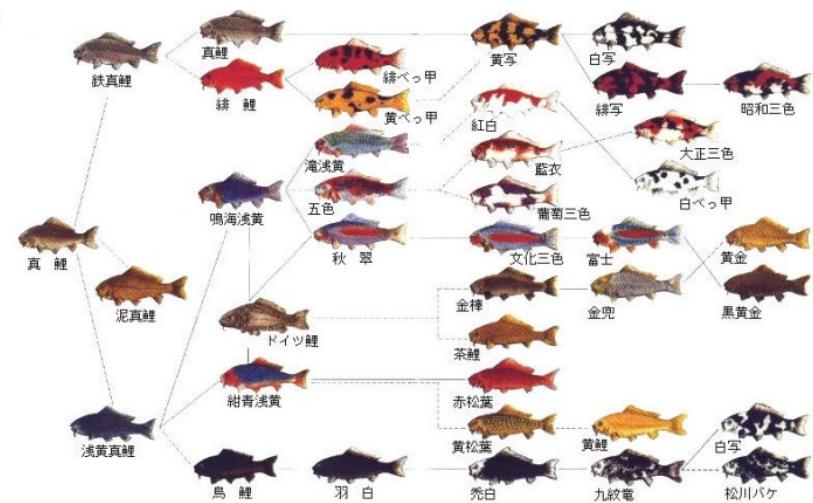


昭和三色
地肌の色は黒（黒地）であって縞斑及び白の斑紋があるもの

東京大正博覽会出品鯉の「鯉魚模様見取図」（1914年）



系統図



写真提供「一般社団法人 全日本錦鯉振興会」

◆ 錦鯉の価値がある理由

錦鯉は1回の産卵で数万から数十万もの卵を産みます。生産者によっては、100匹を超える親鯉を交配させることで、卵の総数が数千万個になることもあります。

膨大な数の稚魚について夏の間に3~4回選別を行い、秋までに越冬用の池に残るのは0.5%以下です。その後も継続して選別が行われます。また、自然災害や病気なども生産量に大きく影響するため、販売できるレベルの鯉は、ほんの一握りとなります。そのため、錦鯉は貴重であり、価値があります。

さらに品評会で優勝した錦鯉には、数百万円~数千万円の値段がつくこともあります。最も高かった錦鯉は2億300万円でした。しかし、生産された錦鯉全てが数百万円レベルの高価になるわけではなく安いものでは1匹1,000円以下のものもあります。

◆ 飼育について

日本生まれの美しい錦鯉は、今では様々な国に輸出されていて、世界中でKoi（コイ）と呼ばれて親しまれています。

私たち日本人にはお馴染みの錦鯉ですが、金魚や熱帯魚と同じように、水槽で飼えることを知っていますか？錦鯉は高い？池がないと飼えない？いえいえ、数百円から販売されている数cm~15cmのお手頃の錦鯉を、水槽飼育で楽しんでいる人も大勢います。

★小さな水槽でも・・錦鯉は、水槽の大きさや環境に合わせて成長します。小さな水槽では大きくなりにくいので金魚や熱帯魚用の水槽でも、飼育を楽しむことができます。

★エサは毎日やらなくとも大丈夫・・錦鯉はとても丈夫です。旅行などでしばらく留守にしても1~2週間位ならエサを与えなくても大丈夫です。

右の写真は振興会が出しているパンフレットの一部です。詳しい飼い方は同会のホームページ（※）にも掲載されています。（※）<https://jnpo.info>

おわりに

振興会によると、錦鯉の輸出の今後の見通しとしては、中国向けが徐々に再開することや、アメリカでの人気も堅調であることから、輸出の増加が期待されるということです。また、メキシコやインドへの輸出も拡大したいと考えているとのことです。

なお、毎年、全日本錦鯉振興会主催の「全日本総合錦鯉品評会」（有料）が開催されており、本年は令和7年1月25日（土）、26日（日）に開催（場所：東京流通センター）されます。この品評会で今年のチャンピオンとなる錦鯉が決まります。また、様々な錦鯉を観ることもできます。今回の特集で錦鯉に興味を持たれた方はぜひ訪れてみてください。



写真提供「一般社団法人 全日本錦鯉振興会」



ポスター提供「一般社団法人 全日本錦鯉振興会」

資料編

全国及び東京税関管内

年別輸出数量・金額の推移

(2019年-2023年、2022年1月～11月-2024年1月～11月)

年月	全国数量 (kg)	全国金額 (千円)	東京数量 (kg)	東京金額 (千円)
2019年	273,372	3,967,295	230,034	3,031,770
2020年	295,067	4,840,633	230,687	3,372,224
2021年	348,209	5,941,901	283,501	4,593,651
2022年	322,397	6,306,033	273,943	5,226,007
2023年	321,899	6,695,778	276,128	5,317,213
2022年 1～11月	274,985	5,152,937	237,590	4,363,369
2023年 1～11月	266,700	5,398,383	228,960	4,230,876
2024年 1～11月	245,776	5,643,921	209,987	4,553,656

港別輸出数量 (2023年)

港	数量 (kg)	割合 (%)
成田空港	182,686	56.8%
羽田空港	91,842	28.5%
福岡空港	20,441	6.4%
関西空港	11,934	3.7%
広島空港	9,218	2.9%
その他	5,778	1.8%
合計	321,899	100.0%

港別輸出金額 (2023年)

港	金額 (千円)	割合 (%)
成田空港	3,691,932	55.1%
羽田空港	1,603,470	23.9%
広島空港	427,479	6.4%
福岡空港	424,858	6.3%
関西空港	409,970	6.1%
その他	138,069	2.1%
合計	6,695,778	100.0%

港別輸出数量 (2024年1月～11月)

港	数量 (kg)	割合 (%)
成田空港	133,384	54.3%
羽田空港	74,262	30.2%
福岡空港	10,946	4.5%
関西空港	9,229	3.8%
広島空港	8,387	3.4%
その他	9,568	3.9%
合計	245,776	100.0%

港別輸出金額 (2024年1月～11月)

港	金額 (千円)	割合 (%)
成田空港	3,021,465	53.5%
羽田空港	1,471,096	26.1%
関西空港	363,954	6.4%
広島空港	337,915	6.0%
福岡空港	287,015	5.1%
その他	162,476	2.9%
合計	5,643,921	100.0%

輸出数量・金額の月別推移 (2021年1月～2024年11月)

年	月	数量 (kg)	金額 (千円)	年	月	数量 (kg)	金額 (千円)	年	月	数量 (kg)	金額 (千円)	年	月	数量 (kg)	金額 (千円)
2021年	1月	46,479	826,136	2022年	1月	29,795	600,602	2023年	1月	25,893	519,685	2024年	1月	19,893	473,711
	2月	37,774	545,211		2月	37,279	752,648		2月	36,073	789,096		2月	31,660	656,275
	3月	40,881	826,026		3月	42,513	846,126		3月	47,851	827,493		3月	42,515	1,009,315
	4月	33,081	607,008		4月	35,171	680,852		4月	24,910	549,669		4月	36,326	1,120,894
	5月	24,381	443,944		5月	25,130	446,459		5月	32,027	704,996		5月	32,934	700,459
	6月	14,432	227,856		6月	19,989	318,910		6月	14,961	318,607		6月	12,983	441,129
	7月	5,611	72,402		7月	4,951	154,597		7月	4,173	68,230		7月	4,556	93,147
	8月	1,878	24,613		8月	2,496	25,735		8月	1,623	17,386		8月	1,810	35,098
	9月	16,993	240,888		9月	8,377	74,118		9月	8,730	123,187		9月	5,318	67,201
	10月	31,880	416,923		10月	16,759	216,480		10月	20,644	471,362		10月	14,943	223,520
	11月	40,653	674,953		11月	52,525	1,036,410		11月	49,815	1,008,672		11月	42,838	823,172
	12月	54,166	1,035,941		12月	47,412	1,153,096		12月	55,199	1,297,395				

(注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

全国の
国（地域）別輸出数量（2023年）

国（地域）	輸出数量(kg)	数量割合(%)
米国	42,636	13.2%
中国	39,840	12.4%
オランダ	30,166	9.4%
英国	29,305	9.1%
インドネシア	29,054	9.0%
ドイツ	28,580	8.9%
タイ	25,270	7.9%
ベトナム	23,388	7.3%
香港	15,580	4.8%
フランス	11,192	3.5%
その他	46,888	14.6%
合計	321,899	100.0%

全国の
国（地域）別輸出金額（2023年）

国（地域）	輸出金額(千円)	金額割合(%)
米国	1,070,874	16.0%
中国	1,038,360	15.5%
インドネシア	672,996	10.1%
香港	657,890	9.8%
タイ	453,177	6.8%
ベトナム	446,137	6.7%
ドイツ	412,924	6.2%
オランダ	411,675	6.1%
英国	383,966	5.7%
マレーシア	222,142	3.3%
その他	925,637	13.8%
合計	6,695,778	100.0%

全国の
国（地域）別輸出数量
(2024年1月～11月)

国（地域）	輸出数量(kg)	数量割合(%)
ベトナム	34,385	14.0%
米国	31,448	12.8%
オランダ	28,444	11.6%
英国	28,116	11.4%
ドイツ	21,595	8.8%
インドネシア	20,828	8.5%
香港	15,601	6.3%
タイ	12,880	5.2%
フランス	10,596	4.3%
南アフリカ	7,462	3.0%
その他	34,421	14.0%
合計	245,776	100.0%

全国の
国（地域）別輸出金額
(2024年1月～11月)

国（地域）	輸出金額(千円)	金額割合(%)
ベトナム	901,411	16.0%
香港	883,262	15.6%
米国	799,691	14.2%
オランダ	409,479	7.3%
英国	398,062	7.1%
インドネシア	393,658	7.0%
ドイツ	343,144	6.1%
ナミビア	256,080	4.5%
タイ	255,751	4.5%
フランス	227,187	4.0%
その他	776,196	13.8%
合計	5,643,921	100.0%

東京税関管内の
国（地域）別輸出数量（2023年）

国（地域）	輸出数量(kg)	数量割合(%)
中国	38,953	14.1%
米国	38,477	13.9%
ドイツ	27,565	10.0%
オランダ	27,446	9.9%
インドネシア	27,254	9.9%
英国	22,973	8.3%
ベトナム	19,090	6.9%
タイ	18,656	6.8%
フランス	11,192	4.1%
香港	8,801	3.2%
その他	35,721	12.9%
合計	276,128	100.0%

東京税関管内の
国（地域）別輸出金額（2023年）

国（地域）	輸出金額(千円)	金額割合(%)
中国	972,605	18.3%
米国	971,643	18.3%
インドネシア	629,176	11.8%
ドイツ	402,628	7.6%
オランダ	360,232	6.8%
ベトナム	331,737	6.2%
英国	325,665	6.1%
タイ	251,801	4.7%
香港	214,881	4.0%
フランス	195,652	3.7%
その他	661,193	12.4%
合計	5,317,213	100.0%

東京税関管内の
国（地域）別輸出数量
(2024年1月～11月)

国（地域）	輸出数量(kg)	数量割合(%)
米国	28,280	13.5%
ベトナム	26,789	12.8%
オランダ	26,435	12.6%
英国	22,553	10.7%
ドイツ	21,062	10.0%
インドネシア	18,935	9.0%
香港	11,814	5.6%
フランス	10,596	5.0%
タイ	9,026	4.3%
南アフリカ	7,462	3.6%
その他	27,035	12.9%
合計	209,987	100.0%

東京税関管内の
国（地域）別輸出金額
(2024年1月～11月)

国（地域）	輸出金額(千円)	金額割合(%)
米国	711,178	15.6%
香港	609,712	13.4%
ベトナム	603,456	13.3%
オランダ	362,273	8.0%
インドネシア	342,397	7.5%
ドイツ	338,033	7.4%
英国	330,632	7.3%
ナミビア	256,080	5.6%
フランス	227,187	5.0%
タイ	145,061	3.2%
その他	627,647	13.8%
合計	4,553,656	100.0%

(注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関



〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-6-3 貨物合同庁舎

<https://www.customs.go.jp/tokyo/>

取材協力：全日本錦鯉振興会